

平成27年度 関西大学 年史資料展示室 企画展

この伝統を、超える未来を。



さようなら 天六学舎

— 85年の歴史展 —

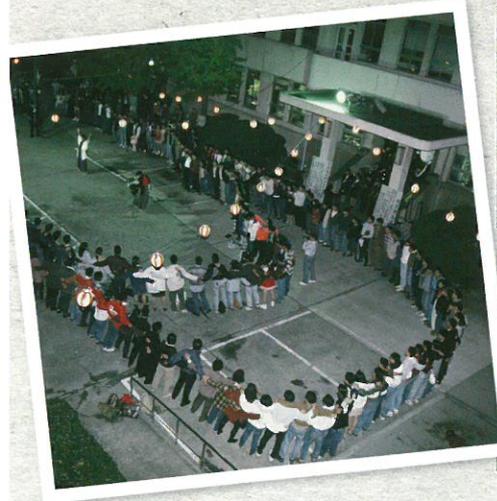
2015年4月1日(水)~9月30日(水) 開館

開館時間 午前10時~午後4時

場 所 関西大学千里山キャンパス 簡文館1階

休 館 日 日曜・祝日・大学が定めた休日

入 館 料 無料



さようなら天六学舎

— 85年の歴史展 —

年史資料展示室では、平成27年度の企画展として「さようなら 天六学舎 - 85年の歴史展 -」を開催いたします。

天六学舎は昭和4年(1929)に竣工し、専門部や関西甲種商業学校の学舎として使用されました。

戦後は昭和27年(1952)から平成5年(1993)まで関西大学第2部の学び舎として利用され、多くの優れた人材を輩出しました。

平成26年(2014)9月、天六学舎の閉鎖が決まり、85年の歴史に幕を下ろすことになりました。

しかし、天六学舎が担ってきた社会人教育の伝統は、平成28年(2016)に開設する大阪市北区鶴野町の新キャンパスに引き継がれていきます。

今回の企画展では、本学建築学専攻の大学院生が作製した天六学舎模型を展示するとともに、85年に及ぶ天六学舎の歴史を、学舎の竣工と整備、学生の姿、天六祭などのトピックを通じて振り返ります。さらに、クロージングイベントやオープンデーも取り上げ、天六学舎に多くの人が集った有終の日の様子を紹介します。



福島学舎から天六学舎へ

明治19年(1886)、大阪西区京町堀の願宗寺で誕生した関西大学は、興正寺(大阪市北区滝川町)、江戸堀、福島と大阪市内を移転しながら発展してきた。大正7年(1918)、大学令が公布され、大学令に依拠した大学に昇格するため、大正11年(1922)、関西大学は千里山に土地を求め、ここに新学舎を建設する。関西大学は千里山と福島に二つのキャンパスを持つことになった。千里山学舎では昼間に大学と大学予科の授業が、福島学舎では昼間に関西甲種商業学校の、夜間には専門部と第二商業学校の授業が行われた。

大正14年(1925)、東海道本線拡張のため国から福島学舎の土地収用が命じられ、学舎の移転が検討された。千里山学舎への交通の便や、夜間に通学する学生の利便性を考え、東淀川区北長柄町399番地にある市有地の払い下げを受け、新たな学舎の建設を始めた。天六学舎の誕生である。



関西大学福島学舎

天六学舎の建設

天六学舎の敷地面積は2214坪で、その土地代金は27万3357円余、新学舎建設費用は38万円が計上された。昭和3年(1928)8月13日に地鎮祭を挙行し、建設工事が始まった。新学舎は、敷地の東端から北側にかけてL字型に設計された。また、新学舎の西隣には木造の雨天体操場と武道場が、福島学舎から移築された。

1年1か月の工期を経て、昭和4年(1929)9月15日に天六学舎は竣工し、落成式は9月22日に挙行された。関西法律学校第1期生である武内作平ほか、来賓の大阪市長関一などが祝辞を述べ、関西大学の前途を祝福した。



天六学舎地鎮祭

新学舎の設備

昭和4年(1929)に竣工した新学舎は、鉄筋コンクリート造、外壁は玉砂利洗い出し仕上げで、窓や入り口、門柱は昭和初期に流行したアール・デコ様式でデザインされていた。

新学舎東棟の3階4階に吹き抜けて設けられた大講堂は、天六学舎を代表する教室であり、入学式や卒業式などの式典や、さまざまな催しがここで開催された。大講堂は「収容人員二千」と宣伝された大空間で、この空間を支えるためのかまぼこ型の梁が天井に露出し、それが見る者に強い印象を与えていた。



大講堂内部

学舎の整備

昭和4年(1929)の新学舎(旧館)建設後、天六学舎では学生の増加に合わせて、学舎の増築を重ねられた。昭和10年(1935)に、旧館西隣に本館が建設された。本館入り口は、沖縄産の大理石張り、2階の内装にはオーク材をふんだんに使用し、豪華な造りとなっていた。本館には大学本部や事務室が入り、昭和40年(1965)、千里山に関西大学会館が建設されるまで、ここに関西大学の本部機能が置かれた。昭和12年(1937)、旧館の北棟屋上に建設された増築部分は、張り出した床を支えるためのバットレス(控え壁)が規則正しく並び独特の外観を見せていた。



建設中の本館



旧館増築部分と本館の外観

第2部開設と天六移転

太平洋戦争後の学制改革にともない、関西大学は昭和23年(1948)に新制大学へ転換した。法学部・文学部・経済学部・商学部の4学部を開設し、各学部には第1部(昼間課程)と第2部(夜間課程)が設けられた。新制大学への転換当初は、第1部第2部ともに千里山キャンパスで授業を行っていたが、新入生は昭和27年(1952)から、第2部在生は昭和28年(1953)から天六学舎に移った。



全館に明かりが灯る天六学舎(昭和50年ごろ)



新館地階の食堂

第2部の天六学舎移転が決まり、施設整備のため本館西隣に新館を建設し、昭和28年(1953)9月に竣工した。地階には食堂が設けられ、大勢の学生でにぎわった。

昭和31年(1956)には、隣接する工場敷地を購入して体育館を建設、昭和39年(1964)には、本館南側に学生ホール・会議室・和室などが入る有鄰館が、さらに昭和42年(1967)、本館屋上時計台を取り囲むように研究室棟が増築され、これらの施設は学生の課外活動を支えた。研究室棟の設計は、当時関西大学の千里山キャンパスで、数多くの学舎建物の設計を手がけていた村野藤吾が行った。

学園祭・天六祭・千夜祭

関西大学の大学祭は、千里山を会場に第1部と第2部が合同で開催していたが、昭和32年(1957)から、第1部は千里山で大学祭を、第2部は会場を天六学舎へ移して、学園祭を開催することになった。

第2部の学園祭は「天六祭」と呼ばれ、平成5年(1993)の第45回まで続いた。主要な行事は夕方5時から6時ごろに始まった。応援団の演舞や体育会の実技、講演会、弁論大会、学術発表会、演劇、合唱、バンド演奏、映画上映などの企画があり、校庭には特設ステージが設けられ、模擬店が並んだ。



千里山キャンパスで開催された第53回学園祭 千夜祭(平成14年)

平成6年(1994)、第2部の千里山移転後、学園祭は「千夜祭」の名称で千里山キャンパスを会場に行われた。平成17年(2005)、最後の第2部学生が卒業する年度の第57回千夜祭が第2部最後の学園祭となった。

天六キャンパス クロージング・イベントとオープンデー

平成26年(2014)7月、天六学舎の閉鎖が発表され、昭和4年(1929)から続いた天六学舎は85年の歴史に幕を下ろすことになった。この学舎を巣立った学生は、4万7千人超を数えた。

平成26年9月4日にクロージング・イベント「ありがとう天六学舎」が開催され、式典と施設見学会が行われた。クロージング・イベントは、旧館大講堂で開催され、池内理事長、楠見学長の挨拶に続き、第2部卒業生が思い出を語った。最後は、応援団OB 長柄会 馬淵純一副会長の指揮で学歌を斉唱した。その後、会場を校庭に移して惜別の宴が行われ、終宴にあたって出席者は肩を組んで道遥歌を歌いあげた。



クロージング・イベント式典での学歌斉唱

また、9月15日の祝日には、校友と近隣住民に天六学舎を開放する「天六キャンパス オープンデー」が開催された。天六学舎最後の姿を記憶に留めて置こうと、649名もの人々が集まった。教室や地階の部室では、ゼミ生やクラブのOB・OGの集いも見られた。

天六界限

大正14年(1925)、今の大阪市営地下鉄天神橋筋6丁目駅の地上に、新京阪鉄道のターミナルビルが完成した。当時は天神橋駅といい、大阪天満宮の参詣道として商店が立ち並んでいた天神橋筋の北方にあった。新京阪鉄道は、京都へ向かう京都本線と、淡路で分かれる十三支線・千里山支線があり、この年に天神橋駅と淡路駅間が開通し、天神橋駅と関西大学のある大学前駅とが一本の線路で結ばれた。

天六学舎の周辺は人家や工場が密集するなど、教育環境としては不十分な面もあったが、新京阪電鉄のターミナルに近く、千里山学舎との交通の便がよかったことが高く評価され、最終的に移転が決まった。

ターミナルビルは昭和45年(1970)に改築が行われ、阪急天六ビルとして生まれ変わったが、地区の再開発により平成22年(2010)に取り壊された。



天神橋駅ターミナルビル



繁華な天六学舎への通学路(昭和40年代)

天六学舎85年のあゆみ

- 昭和4年(1929) 天六学舎が竣工し、専門部、関西甲種商業学校及び関西大学第二商業学校が福島学舎から移転する。
- 昭和5年(1930) 専門部第1部(昼間部)を設置する。
- 昭和10年(1935) 大学本部(本館)が竣工する。
- 昭和12年(1937) 天六学舎の増築が完了する。
- 昭和19年(1944) 関西工業専門学校を設置する(昭和26年(1951)3月廃校)。
- 昭和20年(1945) 関西大学第二商業学校を廃止する。
- 昭和22年(1947) 学制改革に伴い、関西大学第一中学校を設立する。(昭和32年(1957)に千里山へ移転)。
- 昭和23年(1948) 新制大学に移行。
関西大学附属第一高等学校を設立する(昭和28年(1953)に千里山へ移転)。
- 昭和24年(1949) 関西甲種商業学校の最終卒業式を挙げる。
短期大学部を設置する(昭和33年(1958)3月廃校)。
- 昭和26年(1951) 専門部と関西工業専門学校の有終記念式典を挙げる。
- 昭和28年(1953) 学部第2部(夜間)の全部を千里山から天六へ移転する。
天六学舎新館を竣工する。
- 昭和31年(1956) 天六学舎体育館を竣工する。
- 昭和33年(1958) 工学部を設置し、天六学舎で授業を開始する。
- 昭和35年(1960) 千里山に第4学舎が竣工し、工学部が千里山へ移転する。
- 昭和39年(1964) 有鄰館を竣工する。
- 昭和42年(1967) 有鄰館を3階建に増築する。
社会学部(第1部第2部)を設置する。(第1部は昭和43年(1968)に千里山へ移転)
- 平成6年(1994) 第2部を天六から千里山へ全面的に移転する。
- 平成18年(2006) 第2部最後の卒業式を挙げる(千里山)。
- 平成26年(2014) 天六学舎の閉鎖・売却を決定。クロージング・イベントを開催する。

我が学び舎 天六学舎 ～天六にあった学校・学部～

関西大学専門部

関西大学に専門部ができたのは、江戸堀に校舎があった明治37年(1904)のことである。昭和4年(1929)天六学舎が完成し、天六学舎への移転を契機として、昭和5年(1930)に夜間部だけであった専門部に昼間部が開設された。太平洋戦争後の学制改革で専門部は廃止となり、昭和26年(1951)に関西工業専門学校とともに有終を迎えた。

■開校期間

明治37年(1904)～昭和26(1951)

■卒業生 21853人



専門部の授業風景(昭和13年)

関西大学短期大学部

関西大学の短期大学部は、昼間部と夜間部、それぞれ2年制で、専門部商科と関西工業専門学校を継承する商工経営科が置かれた。商工業界の実務指導者育成を目的としたが、短期大学ではなく大学学部への進学希望者が増えてきたことなどから、昭和33年(1958)に廃止となった。

■開校期間

昭和24年(1949)～昭和33年(1958)

■卒業生 2467人



掲示板を確認する短期大学部生

関西甲種商業学校

関西甲種商業学校は、大正2年(1913)4月に創立され、商業と工業で栄えていた大阪を支える商業人を育てることをめざしていた。太平洋戦争後の学制改革のもとで、関西甲種商業学校は関西大学第一高等学校・第一中学校として生まれ変わり、その伝統を引き継いでいる。

■開校期間

大正2年(1913)～昭和24年(1949)

■卒業生 5049人



天六学舎での授業風景(昭和18年)

関西大学第一高等学校・第一中学校

関西甲種商業学校を母体として、昭和22年(1947)4月に関西大学第一中学校が、昭和23年(1948)4月には関西大学附属第一高等学校(通常<昼間>課程3年・夜間課程4年)が開校した。第一中学校は男子校であったが、第一高等学校は当初、男女共学の学校として出発した。

昭和27年(1952)4月から関西大学第2部の講義が天六学舎で行われることになり、昭和28年(1953)11月に第一高等学校が、昭和32年(1957)11月には第一中学校が天六学舎から千里山へ移転した。



男女共学時代の第一高等学校集合写真(昭和27年)

関西大学第二商業学校

第二商業学校は大正13年(1924)に開校した修業年限3年の学校で、夜間の午後4時半から午後9時まで授業が行われた。授業内容は、昼間部の関西甲種商業学校と大差はなく、夜間に勉強をして、大学に進学できる中学校卒業資格を望む生徒が通学した。戦争末期の昭和20年(1945)3月、理工系を重視した学制改革により廃止となった。

■開校期間

大正13年(1924)～昭和20(1945)

■卒業生 2773人



『第二商業学校 校友会誌』掲載の校章

関西大学第2部

関西大学は、明治19年(1886)に関西法律学校として発足した当初から、夜間の学校として講義を行ってきた。第2部は、この関西大学創立以来の伝統を受け継ぐものであった。

第2部は、長く天六学舎で授業を行ってきたが、平成6年(1994)、勤労学生の減少や教育環境の充実のため千里山へ全面移転した。正門に近い第2学舎(経商学舎)が、新たな第2部の学び舎となった。平成18年(2006)3月に最後の卒業生を送り出し、その役割を終えた。

■開校期間

昭和24年(1949)～平成18年(2006)

■卒業生 31622人



第二部が移転した昭和28年(1953)頃の天六学舎航空写真

関西工業専門学校

太平洋戦争終結直前の理工系重視の政策に対して、関西大学は理工系学科の増設で活路を見出そうとした。その結果、昭和19年(1944)に、関西大学で初めてとなる理工系を教授する関西工業専門学校が天六学舎に設置された。高等の工業教育を行い、高級技術者を養成することを目的とし、修業年限は3年、昼間部のみで開校した。実地教育を重視し、多くの時間を工場実習にあてる、特色ある教育を行った。

■開校期間

昭和19年(1944)～昭和26年(1951)

■卒業生 378人



現在のダイハツ工業で工場実習をした1期生

関西大学工学部・社会学部

昭和33年(1958)、工学部は天六学舎で開設され、旧館地階に実験室が設けられた。しかし、すぐに実験設備や機器が増加して収容しきれなくなった。そのため、千里山に学舎を新築し、昭和35年(1960)、工学部は千里山キャンパスへ全面移転した(現在の第4学舎)。

また、昭和42年(1967)に設置された社会学部(第1部・第2部)も、開設初年度は天六学舎で授業が行われ、第3学舎が完成した昭和43年(1968)に第1部は千里山へ移転した。



天六時代の工学部実験室(休館地階東側)

関西大学年史編纂室

〒564-8680大阪府吹田市山手町3-3-35

【TEL】06-6368-1062(直通)

【URL】<http://www.kansai-u.ac.jp/nenshi/>

【E-mail】nenshi@ml.kandai.jp